

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2022年12月10日

Nature:

コロナワクチン未接種者に対する差別的態度の検討：21か国データ

【松崎雑感】

発熱外来を担当している身としては、ワクチンを受けていない人々が感染の診断を受けた場合、「何でワクチンしていなかったのか」と思うことはしばしばあります。ただし、現在のワクチンが感染そのものを完全にブロックする機能はあまりないことを考えると、それぞれの考え方の帰結として、まあ、しょうがないかなと思ったりします。コロナでも、タバコと似た構造があるかもしれません。タバコを吸って重病になり、医療資源に圧迫をもたらすことは、タバコを吸わない人々から見たなら、現行の保険制度の「フリーライダー」という非難が、過去には結構ありました。今は、「人生いろいろ」と言う島倉千代子の歌に沿って、しょうがないかなと思ったりします。でも、「強制ではないですが、あなたと周りの人々を守る選択を、是非ともお願いします」と、強く言いたいです。

松崎道幸 道北勤医協ながやま医院 matsuzaki-m@dohoku-kinikyo.or.jp

コロナワクチン未接種者に対する差別的態度の検討：21か国データ

Bor A, Jørgensen F, Petersen MB. **Discriminatory Attitudes Against the Unvaccinated During a Global Pandemic** [published online ahead of print, 2022 Dec 8]. *Nature*. 2022;10.1038/s41586-022-05607-y. doi:10.1038/s41586-022-05607-y

ワクチン接種が進んだ国々でも、ワクチンを受けない人々が相当数存在する。

その結果、ワクチンを受けないことに対して多くの非難と抗議が引き起こされている現状がある。

このような事情を踏まえて、われわれは、家庭内あるいは政治的場面などで、新型コロナワクチンを受けた人々と受けない人々の間で、否定的な感情、決め付け（固定観念）、排他的態度の表出の有無とその程度を調査した。

様々な文化的背景を持つ21か国において、15233名を対象とした3件のコンジョイント実験調査を行った。

その結果、ワクチンを受けた人々は、受けない人々に対して差別的な態度を表していることが分かった。これは移民者あるいはエスニックマイノリティに対する差別と同様のレベルだった。

一方、ドイツとアメリカを除いては、ワクチンを受けない人々が受けた人々を差別している状況は見られなかった。

ワクチンを受けた人々がワクチンを受けない人々を差別している国は、ハンガリーとルーマニア以外のcooperative norms（集団規範）意識の高い19か国だった。

これまでの研究で、集団規範の強い社会では、ワクチンを受けない人々を「フリーライダー」として差別する傾向が存在することが明らかになっている。

今回の調査でも、自分たちは社会のためにワクチンを受けていると考える人々が「ワクチンを受けないフリーライダー」に対して差別的態度をとっていることが明らかとなった。

社会的エリートとワクチンを受けた一般市民は、ワクチン接種率を向上させることが道徳的義務だと主張しているが、その主張は同時に（ワクチンを受けないことを選択した人々の）基本的人権を侵害していると考えなければならない。